

## COLUMN: 高木 奈穂子 (古市教室)

## 競技大会を振り返って

新年明けましておめでとうございます。古市教室の高木奈穂子です。とは言え、この原稿を書いているのは12月28日。自宅の大掃除のかた

わら、カイチ恒例の年末行事を思い出しながら書いています。

去る12月8日は珠算競技大会が開催され、古市教室が二連覇を達成しました。今回の競技大会は、生徒達の頑張りと、保護者の方々のご協力、そして川西先生の作戦勝ちだったように思います。選手一人一人に得意不得意を聞き

出し、暗算が得意な生徒には暗算に特化した練習、プリント競技が得意な生徒には大量の宿題を渡すなど、教室一丸となって取り組みました。中でも初めて出場する1年生にはアドバイスを事欠かず、ご家庭では読上算・読上暗算のCDを用いて練習するように働きかけ、保護者の方々のご協力もあって、低学年では古市教室が勝利しました。年に一度の競技大会。出場できる生徒はわずかもかもしれませんが、選手達、先生達の真剣さに触れ、教室にいるみんながひとつの目標に向かって進んでいく雰囲気を感じます。

さて、来年は第15回記念大会。

節目となるこの大会でも古市教室が三連覇を目指すべく、さらに指導に力をいれ、カイチの珠算部を盛り上げていきたいと思ひます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



▲今年も優勝トロフィーは古市教室に!!



▲幡さん最高得点賞おめでとう!

## 坪田の イイ話

TEACHER'S VOICE 坪田 陽一 (諸口教室)

## 先生達のクリスマスパーティー

新年明けましておめでとうございます。

とは言え、この記事を書いているのが12月中旬。塾ではこれから冬期講習が始まるうかというタイミングです。この記事が皆さんの目に触れるころには既にお正月も過ぎ、新年度に向けて準備が始まっている頃でしょうか。

さて、昨年の12月9日(日)、カトリーナ先生プロデュースの忘年会ならぬクリスマスパーティーが開催されました。「普通の忘年会ではつまらない」ということで昨年からはまったこの企画。ホテルの地下にあるレストランを貸切にし、フィリピン料理を楽しみながら、各教室からの出



し物あり、ゲームあり、プレゼント交換ありと、あつという間の3時間でした。

特に各教室の出し物は塾長が審査委員長として厳正に審査。見事今福教室が優勝です。川西先生と永野先生の息ピッタリ(?)な「今日俺ダンス」と、斉藤先生の捨て身のパフォーマンスが高評価を得たようです。もちろん他の教室もそれぞれ会場を大いに盛り上げてくれました。特に若い先生達が個性的で息の合った出し物を披露してくれて、とても楽しませていただきました。個人的に一番面白かったのは、今津の松本先生と塚原先生のマジック。危なっかしい感じがハラハラドキキさせられて逆に引き付けられました。

師走の忙しい中、出し物の練習やプレゼントの準備等大変だったかと思います。参加していただいた全スタッフの皆様ありがとうございました。またそれ以上に、会場の手配などカトリーナ先生をはじめ準備に携わった先生方、本当に

お疲れ様でした。おかげ様で、とてもいい時間を過ごさせていただきました。

教室数の増加とともに年々スタッフの人数も増え続け、ここ3年くらいは忘年会も店を一つ貸切にしないと入らない状態です。勿論入れ替わりはありますが、頼れる「仲間」がどんどん増えていると実感しています。特に非常勤で働いている若い先生達の成長が著しく、勢いを感じます。昨年は本当に色々な事があり、アタフタしながらもパートの先生方やアルバイトの皆の力を借りて何とか無事に乗り切ることができました。これからも、なんだかんだ決して順風満帆とはいかないと思ひますが、「日本一ええ塾」を目指して頑張っていきたいと思ひます。今年も1年、カイチをよろしくお願ひいたします。



## カイチからのお知らせ

- 1月27日(日)は英検のテスト日です。英検クラスのみならず全員合格目指して頑張ろう。
- 1月30日(水)・31日(木)は小4～中2の診断テストを実施します。
- 1月末までに新年度申込みをした、珠算・バスカルキッズ・トーキングキッズ生または塾生のご兄弟は早割として、入会金を無料に、教材費を5,000円割引いたします。
- 2月2日(土)・9日(土)・16日(土)は新年度合同入塾説明会を実施します。入会をご希望の方は是非ご参加ください。

## 生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

## Growing

January 2019  
Vol. 77  
毎月10日発行

【本 部】  
城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201  
TEL.06-6939-0008

【今福教室】  
城東区今福西 2-9-20  
TEL.06-6934-4662  
【諸口教室】  
鶴見区諸口 4-14-9-1F  
TEL.06-6912-3984  
【今津教室】  
鶴見区今津南 1-6-2-1F  
TEL.06-6167-9722

【今福第2教室】  
城東区今福西 2-16-8  
TEL.06-6931-2000  
【開目教室】  
城東区開目 4-6-17-2F・3F  
TEL.06-6934-8117  
【古市教室】  
城東区古市 3-21-8  
TEL.06-6931-0467



高木 秀章 (塾長)

第14回珠算競技大会  
古市教室優勝おめでとう!

あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。

今年は亥年ですが、動物の猪のイメージから、万病を予防するという意味もあります。これは、猪の肉に万病予防の効能があると信じられていることによります。ここから、無病息災の意味が生じたそうです。先生も、年末に生まれて初めて「ぼたん鍋」(猪のお肉の鍋)を食べました。確かに猪の見た目は反して、あっさりしていて、しかも、煮れば煮るほど柔らかく、おいしくなる?!これで、今年も元気に頑張れそうです。また、亥年には、十二支の中でも最後の年ということで、11年間のエネルギーを蓄えて次の世代へと向かう準備をするという意味でもあるそうです。今年も平成が終わり、新しい元号となります。また、来年には東京オリンピック。私達ももちろん日本全体にとっても、「新しい何かに向かう」年になる気がします。

昨年12月8日(土)に第14回珠算競技大会が実施されました。今年も各教室から優秀な選手達が集まり、そして古市教室の優勝で幕を閉じました。

私は今福教室の生徒達を指導し今回の競技会に挑みましたが、開会式から緊張感が漂っていました。この競技会は、生徒達にとっては普段ベストテンで上位を取っているライバル達と顔を合わせ、真っ向勝負で競い合う年に一度の機会です。開智の先生達にとっては、会長であり開智のそらばん教室の創業者である高木健先生の前で、1年の指導の成果を見せる場面でもあります。

各学年の読み上げ算・読み上げ暗算では、3問の予選後、予選通過者の中で1位決定戦が始まります。先生は4年生の読み上げ算競技に立ち会いましたが、1位決定の問題が9桁(一億)~18桁(十京)の10口の読み上げ算。このレベルになると先生達も相当練習をしておかなければ読み違えてしまいます。

しかし、読み上げ算の最高桁数十京のしかも、一億円までの位違いという最高難度の読み上げ算をいきなり3名が正解する混戦になりました。ここから読み手の先生の腕の見せ所で、スピードや読み方に変化をつけながら僅差の3名から1名の優勝者を出します。先生と健先生が見ている中、若手の井上先生は相当緊張している様子でした。



▲優勝決定!ガッツポーズ!!

生徒も全力、先生も全力で張り詰めた状態の中、優勝が決まった瞬間は、生徒の「よし!」という声と共に緊張の糸が切れ、どよめきが起きる独特の雰囲気になりました。毎年、この競技会では各学年の読み上げ算優勝者と読み上げ暗算優勝者を集め、開智No.1決定戦が、全生徒達が見守る中、実施されます。今年の優勝者は読み上げ算では、小3以上が全員、最高難度の9ケタ~18ケタ10口を難なく正解してしまう強者揃い、読み上げ暗算も小学3年生以上の全員が5ケタ

(一万円)~7ケタ(百万円)5口を正解するハイレベルな戦いとなりました。

ドラマは読み上げ算の時に起きました。事前打ち合わせで、決勝戦はスピードだけでは勝敗をつけるのは難しいということで、引き算を加えることで優勝者を絞るようになっていました。しかし、当日、読み手の先生が手違いで、生徒達が練習したことがない、マイナス算を読んできました。殆どの生徒が最後まで置けず、読み手の先生が仕切り直そうとしていた中、今福教室の兵頭香伶さん(小3)だけが解答を書いています。そしてその答えは、正解。練習していない難問を当日、あっさり正解するという圧巻の結果で幕を閉じました。

実は、毎回の競技会でこのようなドラマが起きます。今回の競技会でも、まさか!という生徒が力を発揮して優勝する場面がいくつもありました。練習ではできない、でも本番の緊張感の中で能力が開花する。しかも、凄い選手が出るとそのレベルを基準にして翌年にもっと凄い子供達が現れます。

今回は読み上げ暗算・読み上げ算の開智No.1獲得は兵頭香伶さん、プリント競技の総合優勝は古市教室の幡奈々佳さん(小4)でした。去年の競技会では幡さんが読み上げ暗算で十万円台を正解してカイチNo.1となり皆を驚かせましたが、今年カイチNo.1に出場した選手で百万円台を正解出来る生徒は4名も出てきました。読み上げ算も3年前は十京の揃いでカイチNo.1になれましたが、今年は十京~一億の位違いを早く・正確に置けなければ学年優勝すら出来ない状態です。

これは教室間でも同じ事が言えます。昨年今福教室が古市教室に7年ぶりに負けましたが、そこからは、諸口・今津など各教室の生徒達が確実に力を付けています。そして、そのような中、古市教室はさらに力を付け勝利しました。来年度も各教室、古市教室のレベルを目指し切磋琢磨していくことでしょう。

子供達の能力は素晴らしい。指導する私達が、大人の常識で子供達に制限を加えなければ、どんどん能力を伸ばしていきます。それが、この競技会をする度に得られる教訓です。

閉会式での高木健会長先生からの「君たちの能力はすごい。みんな楽しかったか?」という問いにみんなが大きな声で「はい!」と答えていましたが、やはり本当の楽しさは、本気の中にあるのだと思います。

今年も1年が始まりました。受験生達は1ヶ月後に私立入試が待ち構えています。「最後まで生徒の可能性を信じ続ける。」当たり前のことかもしれませんが、その当たり前に立ち返りスタッフ一同精進努力を重ねてまいります。今年も何卒宜しくお願いいたします。



▲カイチNO.1決定戦の様子



▲会場は緊張感が漂っていました。



▲健先生からの閉会挨拶

## Focus



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

## 予備校のガラクタ

対馬 秀彦 (カイチ予備校、今福教室)

2018年4月に開校したカイチ予備校も、開校9か月がたち、現在、約40名の高校生に通っていただいています。毎日自習室に来て勉強してくれる生徒も多く、大学受験に向けて、日々、努力を重ねています。

カイチ予備校の廊下には、少し意味不明な「オブジェ(置物)」を置いています。色々な人に「何ですかこれは?」「誰がこんなガラクタ持ってきたのですか?」と聞かれるので、ここで紹介しておきます。

私がこのようなオブジェ(ガラクタ)をたくさん持っているのは、全て、岡先生という先生からいただいたものです。岡先生は京都大学理学部物理学科のご出身で、日本初のノーベル賞受賞者である湯川秀樹の教え子です。大手前高校や灘高校の教員として数多くの生徒を指導されてきた、全国的にも有名な先生です。

私が先生から初めてガラクタ、もとい、オブジェをいただいたのは6年前。「分子模型を作ってみたから対馬君にあげるね」と言って渡して下さったのです。「大切にします」と言って家に持って帰り、本棚に置いていたのですが、ある日、当時2歳だった私の娘があっという間に壊してしまいました。

後日、岡先生にそのことをお伝えすると、「2歳の子どもが分子の模型に興味を示すとは素晴らしい!さすが対馬君の子だ。他のも持って帰りなさい。」と言われ、もっと大きな模型を渡されてしまいました。この時から、私は岡先生にお会いするたびに新作のガラクタをいただくようになったのです。これまでいただいたものを3つ紹介します。

## 1.分子の模型

今、中学校に通っておられる方は、数学の時間に、球の体積、球の表面積の勉強をしたと思います。公式は、半径 $r$ のとき、体積は $\frac{4}{3}\pi r^3$ 、表面積は $4\pi r^2$ でした。この公式を理解する時に「長さを3回かけて $r^3$ がでてくるから体積、

世の中の物質は全て原子からできているわけですが、その原子がどういう形につながるかで全く性質の異なる物質になります。例えば炭素は元素記号で書くとCですが、この炭素からできた物質には黒鉛やダイヤモンドがあります。黒鉛は鉛筆の芯に使われている身近なものです。ダイヤモンドは非常に硬く、また高価なものです。「同じ炭素からできているのに」と思うと不思議です。

## 2.フラクタルの模型

同じ図形が再帰的に表れた図形をフラクタルと言います(意味不明の説明ですみません、うまく説明できません)。

写真は、小さな四角い立方体(サイコロの形)をつなぎ合わせたものなのですが、岡先生に「全部でいくつのサイコロからできているかわかるか?」と言われ、何度も数えたのですが、何度数えても違う数になってしまい、うまく数えられませんでした。ところが、この図形をある方向から見ると、全てのサイコロが重ならないように見えることがわかり、 $8 \times 8$ で64

個あると計算できるのです。数学のセンスのある生徒は、この話をすると「なるほど」と言って非常に喜びます。さらにセンスのある生徒は、「長さの2乗に比例しているということですか?」と言ったりします。

今、中学校に通っておられる方は、数学の時間に、球の体積、球の表面積の勉強をしたと思います。公式は、半径 $r$ のとき、体積は $\frac{4}{3}\pi r^3$ 、表面積は $4\pi r^2$ でした。この公式を理解する時に「長さを3回かけて $r^3$ がでてくるから体積、

2回かけて $r^2$ がでてくるから面積」という理解をする人が多いと思います。

これと同じ理解をすると、この写真のサイコロの数は $r^2$ に比例するということになります。正式には、フラクタル次元という概念だそうです。(私は岡先生に2時間くらい説明いただいたのですが深くは理解できませんでした。)

## 3.四面体の模型

近年の京都大学の入試問題では、四面体の問題が頻出です。岡先生は毎年入試が終わると、その年の問題の四面体を作っておられます。



例えば昨年の京都大学では、次のような問題が出題されました。

四面体ABCDは $AC=BD$ 、 $AD=BC$ を満たすとし、辺ABの中点をP、辺CDの中点をQとする。

- (1) 辺ABと線分PQは垂直であることを示せ。
- (2) 線分PQを含む平面 $\alpha$ で四面体ABCDを切って2つの部分に分ける。このとき、2つの部分の体積は等しいことを示せ。(京都大学2018年)

この問題の解き方が知りたい人は、予備校に来て松井先生に質問して下さい。(松井先生は、カイチのそらばんで鍛えた頭脳で昨年この問題を解き、京大農学部に入学された優秀な先生です。)

このように不思議なガラクタが並んでいるカイチ予備校、高校生になったらぜひ一度ガラクタを見に来て下さい。

## Education



## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

## TKライティングクラスの新たな取り組み

近久 賢治 (諸口教室)



はじめまして、6月より開智総合学院に仲間入りしました近久と申します。僕が入社した頃の頃はまだまだうだるような暑さだったのが、あっという間に冷え込みが厳しくなり、早いものでもう1月です。年々月日の経つのが短く感じるようになってきましたが、周りの先生方・生徒達から日々刺激を受けて毎日を過ごしております。



さて、刺激的といえば、今私が所属しておりますトーキングキッズ(以下TK)のクラスについてです。既にご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、TKクラスは日本人講師による「英文法クラス」と外国人講師による「スピーキングクラス」の2つの授業を1時間の中で行い、英検合格を目指す講座となっております。

かくいう僕も日本人講師として、「中学の内容をどのようにしたら上手く小学生に伝えられるか」を意識し、スピーキングクラスのカトリナ先生、シルバ先生、そして幼児教育のノウハウを持つ高木塾長にもご協力いただき、試行錯誤しながら授業に臨んでいます。今回はそんな試行錯誤の中生まれた英文法クラスの新しい

試みについてお話ししたいと思います。

「小学校低学年に何かを教える」にあたって、まず意識しなければならないことは「スピード感」です。子供達と我々大人の時間の感覚は全く違ってきます。前述した「月日って短く感じるなあ」は様々な経験を積んだ大人だから短く感じるのであって、毎日が新しいことの連続の子供達には生活時間に対する情報量が多いため一年は長く感じる、のだそうです。つまり、大人のペースでゆっくり話すと、じっと聞いている子供達は長く感じてしまうようです。(僕がのんびりした性格なのもあるのかもしれませんが…)説明は素早く端的に、テンポよく進めていくことが大切です。

次に「ゲーム要素」です。子供達に「長いなあ」と感じさせないために、そしてクラス全体に勝負ごとの緊張感を伝えさせ、集中する。そんな遊びにつながる要素を入れて飽きさせない工夫をしていくことが大切です。



上記のような考えから生まれたのが、現在行っている「瞬間英作文」です。これは日本語でこちらが文を言い、その文を子供達が瞬間的に英語で答える、というものです。例えば「彼は親切です。はい!」と僕が言って「He is kind!」と子供達が答えるといった感じです。

「英単語でも難しい子がいるのに、大丈夫かな…」と初めは正直思っていました。数週間練習を繰り返すうちにbe動詞、一般動詞の基本的な文はものすごいスピードで答えてくれるようになりました。これには驚きです。すぐさま基本的な文から長めの文に変えたところ、何とこれにも一週間で対応。今では「これらのレモンはすっぱくないです」など中学生でも複数形で間違えそうな難しめの内容も「These lemons

are not sour!」と1秒かからず答えられるように。「すごいな、家でだいた練習してきて偉いな!」と言ったところ、「隣の子に負けたくないから練習してきた!」と元気に答えてくれました。子供達の可能性に頭が下がる思いです。

こういったトレーニングを取り入れることにより演習中の集中力も増したように思います。英語の文を書くにあたってのルールを最初に教えられるか、口に馴染んだ文のルールを後で教えられるかの違いですが、後者の方が低学年の子供達はより理解しやすいように思います。先生達が「主語が、動詞が、形容詞が」と力押しで文法知識を教えるのではなく、ゲーム感覚で楽しみながら後から「あの時のあの単語が主語で、あれが動詞やな」と感覚的に理解させることで、子供達は「詳しくルールはわからないけど、こうなるのは何となくわかる」という力が備わっていくのだと思います。遊びから全体像を理解しようとするこの感覚は、英語はもちろん勉強全般において大切であり、ひいては社会に出て何かを行うにあたってとても大切なことだと思えます。



TKクラスは英検合格を目指すクラスですが、「英検〇級取得」という目的だけに固執せず、どんどんそういった感覚を身に付けていてもらいたいと思います。そうすることでこれから先、見える景色が変わってくるのが必ずあります。もちろん高校受験、大学受験において現状英検取得は大切ですので合格に向けて講師一同全力で取り組んでいきますが、これからも日々授業を工夫して子供達の可能性を引き出すべくこのような新たな試みも生み出していきたいと思えます。